


会 議 録

会議の名称	令和4年度第2回ふじみ野市社会教育委員会議			
開催日時	令和4年7月19日（火） 開会時刻 午後2時00分 閉会時刻 午後4時30分			
開催場所	ふじみ野市役所 第2庁舎 3階 B301会議室			
出席した者の 氏名 (委員15人 中12人出席)	役職名	氏名	役職名	氏名
	議 長	斎 藤 宏	委 員	長谷川節子
	副 議 長	中 窪 由 香 理	委 員	大久保昭男
	委 員	山 口 ゆ か り	委 員	小 澤 真 樹
	委 員	千 葉 信	文化・スポーツ振興課長	吉 村 敏 世
	委 員	石 川 健 一	文化・スポーツ振興課係長	黒 川 大 介
	委 員	三 澤 広 江	上福岡歴史民俗資料館長	高 崎 直 成
	委 員	江 科	事務局(課長)	永 倉 秀 雄
	委 員	清 水 篤 史	事務局(副課長)	小 林 久 美
委 員	八 木 澤 敦 士	事務局(主事補)	土 屋 瑠 奈	
会議の議題	(1) 西文化施設について (2) 大井郷土資料館の移転について (3) 情報交換 (4) その他			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	教育部 社会教育課			
議事の確定	確定年月日	令和4年8月1日		
	記名押印	役職名 議 長 斎 藤 宏 		

別紙

発言者	発言の要旨
事務局 (小林)	開会の挨拶 欠席者3名で会議成立、傍聴者0名の報告
斎藤議長	議事進行
事務局 (土屋)	資料の確認
斎藤議長	議事1「西文化施設について」議事進行
永倉課長	議事1「西文化施設について」説明
吉村課長	議事1「西文化施設について」の資料に基づき説明
斎藤議長	質疑応答
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館機能は1階の展示室、2階の一般図書コーナー、3階の児童図書コーナー、4階の図書コーナーでそれぞれ対象とするものを分けているような感じがする。現行の図書館のスペースの平米数、蔵書数をまかなえているのか。 ・公民館機能を考えた時に4階のスペースのみ公民館事業として活用できるのか。
永倉課長	<ul style="list-style-type: none"> ・1点目の図書館の面積と蔵書数について。まず面積については、大井図書館は現在1フロアで機能している。2階は研修室等があります。配架の部分のみ見ますとトータル的に現在から100平米ほど狭くなる。しかし、所蔵している本、配架されている本や書庫に置かれている本の数の合計数は新しい施設のほうが6,000冊多くなる。 ・2点目の話は、確かに4階に公民館としてのホールがあるが、各フロアに学習室や研修室を兼ねそろえているので、すべての市民の方が集えるような、生涯学習としても活用を行うことができる施設として考えている。
吉村課長	<ul style="list-style-type: none"> ・補足として、この施設を建設したときのコンセプトが図書館単体を目的としてくる方と、複合で来る公民館機能を併せもつというコンセプトで、壁をなくすというのが基本にある。ホワイエでもどこの場所でも本を読める。出入り口のところにBDSが置いてあるが、好きな場所で読んでいただいて結構ですといったコンセプトで進めている。 ・部屋についても、現在利用している公民館より面積が狭くなるということはないように、楽屋を兼用したり等工夫して狭い施設だが活動場所が少なくならない

	ように、文化・スポーツ振興課でも重点的に考えている。
山口委員	・ホワイエの本棚は左のホールが活動中は扉を閉しめると話があったが、そのイメージがわからない。
永倉課長	資料に基づき説明
吉村課長	・ホワイエのいすに座って飲み物を飲みながら本を読めるようになっている。勉強等することを考えて机を配置するかは、今後検討する。
八木澤委員	・材料について、共用部分の床はゴムチップ舗装とあるが、これはゴムチップタイルか、それとも癒着タイプで舗装してしまうのか。ゴムチップタイプはやわらかくてよいが、破れやすい面もある。後々補修をするときに全面舗装をしてしまうとそこだけ補修が出来ないので、タイル状だとしやすいと思う。またはクッションフロア等でも今後のメンテナンスを考えてよかったのではと思った。
吉村課長	・床のゴムチップ部分の細かい仕様については質問されたとおりにが今後のメンテナンスを考えて有効性があるか話を詰めている段階。今どちらが良いか最終判断をしている。
中窪副議長	・ステラ・ウェストができれば成人式は1回で開催できるのか。
永倉課長	・成人式は800人～840人程、対象者の6割強、64%くらいが参加する。今ステラ・ウェストのホールは800席ちょっとあるが、事務局としては1回での開催は難しいと考えている。コロナ感染予防という理由だけでなく800人を超えるとなかなか1回では難しいと考えている。再来年の成人式にはステラ・ウェストを会場として考えている。
中窪副議長	・3階のスタジオはダンスやコーラスができると話があったが、ピアノは置くのか。
吉村課長	・1階と3階のスタジオ、楽屋のところのどこかに2台置こうとしている。ステージに上がる前の声出しとして楽屋等にあったほうがよいか、1階より3階の方がよいか、スタジオに置くとダンスの時に邪魔じゃないか等考え、3部屋の内に2台置くところを確定しようとしている。旧勤労福祉センターでステージ横においたピアノがデッドスペースになってしまっていたのをステラ・イーストで無くした経緯があり、3階のスタジオはスペースを考え電子ピアノにしようと考えている。
中窪副議長	・ホールのピアノはどのくらいの大きさのピアノを置く予定か。

吉村課長	・ホールのピアノはスタンウェイのフルコンサートピアノと、ヤマハの日本で1番良いピアノの2台を設置する予定。
山口委員	・中学生が音楽発表会の際にバスを借りて市外のホールに行くという話をきくが、ステラ・ウェストができれば、ここで開催できるのか。
吉村課長	・今予定をしているのが、エコラボ見学等で行っているようにバスの予算をとって移動のような方法で行いたいと思っている。大井中学校は生徒数が多いためウエスタ川越で行うと言っていたが、他の18校は音楽会や、吹奏楽部等の発表会で使用するための予算を文化・スポーツ振興課、または市で確保しようと思っている。
清水委員	・上野台小学校でもステラ・イーストが工事中のときにぜひ使わせていただきたい。学校としてもバスでの移動ができると大変ありがたいと思う。ぜひ一番に使わせていただきたい。先ほどピアノの話があったが、いままではどこに置いていたのか。
吉村課長	・今までは視聴覚ホールに置いていた。
清水委員	・現場の人間からするとぜひピアノをお願いしたい。
斎藤議長	議事2「大井郷土資料館の移転について」議事進行
高崎館長	議事2「大井郷土資料館の移転について」の資料に基づき説明
斎藤議長	質疑応答
大久保委員	・現在ある資料館には展示ホールがあると思う。新しい施設では展示ホールは設けないのか。
高崎館長	・新しい資料館の商工会館には展示室を設ける場所がない。そのかわりとして旧大井村役場を展示室として利用し、他の場所でも展示をしていこうとしている。
大久保委員	・現在の大井郷土資料館はスペースが広いわけではない。しかし工夫していると私は思う。一番大事なものは、子供たちの郷土愛等を育むためには身近な施設で実物をおとした学習が必要。特に小学3年の地域学習や、6年生の歴史学習等そういった時に展示ホールがなくなるり映像のみになると、そういったカバーができなくなる。実際に私が旭ふれあいセンターを見た時スペースは見ている。本当に狭い。あそこに展示ホールは出来ないと思う。そこに課題があると思った。

高崎館長	・実物はもちろん旧大井村役場やほかのところで展示等をする。補足として今も収蔵しているものがたくさんあり、すべてを展示しきれていない。今後、映像でそういった資料を活用して紹介していきながら、こういうのが見たいと希望があれば実際に見てもらおう等する。
大久保委員	・現在も収蔵品を学校現場に貸出しているのか。
高崎館長	・行っている。例年1月、2月にはこちらから持っていき子供たちに体験してもらっている。コロナの関係があり、資料館へ学校から出向いていけないというのが令和2年にあったため、ほぼ全校に資料館から出向いて体育館等で資料をつかった体験学習を行った。
千葉委員	・現在学校展示室は東台小、西原小、さぎの森小、駒西小の4校か。
高崎館長	・現在駒西小が準備中で、展示しているのは3校だが、さぎの森小は大規模改修のため、この夏は展示物を取り払い秋以降再開する。またよりよくするために今後作り変えていきたいと思っている。現在は3校で駒西小ができれば4校となる。
千葉委員	・今後この展示室を増やしていく予定があるか教えてほしい。
高崎館長	・それぞれの学校の事情があると思うが、場所があれば順次増やしていきたい。まだ計画的なものをお答えできる状況ではない。
千葉委員	・大井地区の大井郷土資料館がなくなると大井の子供たちには歴史の勉強や、郷土学習が旭ふれあいセンターでは見られなくなるので各学校で積極的にやっていくことになるのか。
高崎館長	・方法として1つは大井村役場に来ていただいて大井村役場の建物と展示物を見ていただく。
千葉委員	・3年生は建物を見るためだけでなく昔の生活を学ぶのであってそのマイナスをどのように解決するつもりか。
高崎館長	・体験学習を旧大井村役場の中の展示物で行うことや、西文化施設でも昔の暮らしの展示を行う予定なので、そちらで代えていただく。
千葉委員	・学校展示室を増やしていくと言っていたが、なかなか増えない。大井地区の歴史については大井郷土資料館をなくすと子供たちにすごいマイナスだと感じる

	<p>が、館長としては市長が決めたことのため致し方ないと思うが、ならば学校展示室を積極的に増やしていかないとまずいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上福岡歴史民俗資料館では2月、3月に各学校から資料館に来て昔の暮らしの体験をしていると思う。今までは危ない道路を先生方が一生懸命気を付けながらきていたが、先ほどの話だとバスが学校で使えると言っていた。そういったものを使う考えはないか。
高崎館長	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの話は西文化施設のときにでた話だと思う。
千葉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・西文化施設のみバスで子供たちが移動できるものなのか。
高崎館長	<ul style="list-style-type: none"> ・バスを利用する話は確定の話ではないと思う。
千葉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にバスを利用する方向に考えてもらえないか。危ないのだから。私は何回か体験学習の手伝いをしているが、さぎの森小は資料館にくるまでは2クラスの生徒を先生が連れてくる。横断歩道を渡る時もすごく危ない。小学生は繋がってしまうから、赤でも渡ってしまう。そんなあぶない状態で来て学習した後、また帰りも危ない。さっきのバスの利用もなぜ西文化施設だけなのか。資料館でも使えるように交渉してほしい。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料館の移転についてかなりの問題がでている。上福岡地域と大井地域は地形的に歴史をみてもかなり違う。上福岡地域は低地の文化、大井地域は台地の文化である。大井地域の人実際物を見るときとなると上福岡地域のものを見ることがなくなってしまふ。使う道具も地域によって違う。そういったものを見ることが出来なくなるのが残念。映像でというのも1つの方法であるが、今現在の資料館は小さいながら工夫してやっていると思う。なくなってしまうのは、今の教育の流れに即しているかどうか。子供たちには郷土愛を育てようやっている。今ふじみ野市には人口が流入しているため、郷土を持っていない人がたくさんいる。ここを故郷として愛していく人材を育てない限り自治体というのは成り立たない。その辺まで考えて行っているのか疑問である。
中窪副議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今まであった展示室と同じようなものを学校展示室に置いているのではなかったのか。
高崎館長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校展示室は実際資料館よりも多く民具を置いている。学校展示室については、まだ実現していないが展示室がある学校の近くの学校が見に行けるようできればよいと考えている。学校の展示室について出来る限り全校に広げていき、学校で直接学べるようにできればと考えている。
中窪副議長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校展示室に資料館職員が行って説明をする等はできないのか。例えば東台小

	に大井小の子がいった資料館の人が説明したり、体験したりすることは。
高崎館長	・行っている。東台小は東原小の子が見に行くといのは想定していたが実現しなかった。東原小は資料館で体験学習をしたいということだった。その前はコロナのため、東原小学校の校舎内で行った。今後東台小の展示室で東原小の子に体験学習をしてもらえればと考えている。
中窪副議長	・そこにバスを使えばよい。
千葉委員	・資料館の審議会のなかで各学校に郷土資料室を作っていこうとなったが、思ったように進まなかった。それは空き教室もなかったりするため。その時に大井郷土資料館を無くすのか。凄いマイナスで、今後郷土学習をどうやって行くのか、資料館職員やボランティアが道具をもって学校に行くのはすごい時間ロスになっていると思う。
大久保委員	・こういった話をしたときにたくさんの意見がでる。資料館は社会教育施設である。社会教育委員会議のなかで話がでてそこまで論議して、やむを得ない措置だとなればしょうがない。そうでなければ、今の課題が残る。本来であれば社会教育委員会議のなかでもんで市長なりに答申出すようにしないと1つの施設がなくなり、代替的なものは今までの機能を担保できるかとなればそうでないのだから、ここに課題があると私は思う。
千葉委員	・ステラ・イーストの1階のテレビで郷土のことを映像で出しているすごくいい資料がある。あれは各学校にいつているのか。
永倉課長	・実際はステラ・イーストの映像のみです。
千葉委員	・その映像を各学校に配るとい考えはないのか。
永倉課長	・利用者の方からかなり好評を得ているという認識はしているので、可能であれば各学校に配りたいと思っている。今年度社会教育課で「やさしい日本語でめぐるまちさんぽツアー」というものがあるが、この中で今流れている映像を漫画に印刷をする。その漫画を各学校の図書室に配付し貸出する予定です。
千葉委員	・すごくいい映像だと思う。ぜひ各学校に配付したほうがよい。
事務局 (小林)	・資料館職員も一緒に作ったものである。
斎藤議長	議事進行

議事「情報交換」

石川委員

- ・入間地区社会教育協議会社会教育委員部会について
13市町で組織されている協議会の下部組織で、幹事市が2年ごとに回っている。今年と来年はふじみ野市が幹事として行っている。事務局も今年から変わったばかり。他の市町から来ている委員さんはベテランばかりで、いろいろなご意見を出されていた。第2回の会議では今年度の事業と10月に行う社会教育委員研修会、2月に行う生涯学習フォーラムについて話した。特に社会教育委員研修については部会が担当なので、なんのテーマで、どんな形式で行うか決めるため話し合ったが決まらず、部会長と副部会長に託されてしまった。社会教育課と話し合いながら決める予定。ちなみに副部会長は富士見市と三芳町なので連携をとりながら決めたいと思う。
- ・その中の話ででたのが、各市町の社会教育委員の取組の仕方はバラバラだそう。毎月行っているところもあり、報酬のところも違う。そういったところも話し合おうとなった。任期の期間もまちまちで委嘱がまだ先の委員もいたりしたりで、市町の足並みがそろっていない。

中窪副議長

- ・つつじ文庫の活動について
- ・久しぶりにイベントを行った。いままでコロナであまり活動が出来ておらず落ち込んでいたが、たくさんの親子が来てくれてよかった。また8月に夏休みのイベントを行う予定で今準備中。

山口委員

- ・お話し会を週に2回設けている。対象が0歳から2歳の親子。絵本や紙芝居、手遊び、エプロンシアターを30分くらいやっている。コロナで最近できていなかったが、夏休みもイベントを企画している。
- ・ココネの子育てふれあい広場という0歳から2歳親子対象の場所がある。普段は一時保育をしたり、親子で遊んだりできる。イベントとしてお母さん向けのヨガ教室やわらべ歌会などがある。年に3回ほどガチャガチャバンドとして音楽をとおして親子と触れ合う活動を行っている。
- ・その他は学校の応援団として色んなボランティアをしている。
- ・人形劇をお母さんサークルでやっており、先日特別支援の学校に及びいただき発表会をした。

千葉委員

- ・上福岡歴史民俗資料館友の会について
この会はできてから37年くらいたち、多い時には100人以上の会員がいた。現在は43人。資料館のいろいろなお手伝いをしている。
- ・10月からイオンタウンの3階の郵便局側に市が借りているスペースがあるが、そこで少し場所を借りて展示を行う。

石川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ協会について <p>埼玉県のスポート協会西部支部の集まりで、中学校の部活動の地域移行の話がでていた。6月中旬にスポーツ庁から提言がなされた。まずは土日の部活動を地域に移行する動き。学校の責任外のところで、ここ3年の間におこなっていく。また平日も出来るところは地域移行していく流れ。今後中学校の部活動は無くなってしまわないかというところ。まだ具体的な内容はおりてきていない。現在県では検討中の段階。その後県から市町村にくる予定。先日文化・スポーツ振興課長から地域の方でも受け皿を用意しておいてくれと連絡があった。まだ不透明な部分が多く頭を悩ませている状況。</p>
三澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護委員の活動について <p>啓発活動と人権相談が業務内容。コロナの中で啓発活動ができていなかったが、人権相談はコロナの中でも継続して行っていた。ふじみ野市の人権相談は月1回、法務局の川越支所でも行っている。また、全部の学校から手紙でも受付している。川越から届くのが一番多い、ふじみ野市も多いほう。</p> <p>啓発活動は、6月9日に2年、3年ぶりに鶴ヶ丘小学校で人権教室に呼んでいただいた。1・2年生を対象に紙芝居を使って行った。1学年3クラスずつだったので、クラス別で行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじみ野市人権推進協議会の方で研修会を7月9日にステラ・イーストホールで行った。とてもわかりやすく勉強になった。
江委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじみの国際交流センターの活動について ・理事長が石井ななえさんから室井伸幸さんへ変わった。 ・外国人の数がすごく増えてきている。大人も子供も増えてきている。週2回活動しているが、すぐ定員になってしまう。土曜日に子どもクラブの活動をしているが、今20人くらいいる。国籍も多国籍化しており、漢字になじみのない国の子は漢字を教えるのがすごく大変。また、問題になっているのが、15歳以上の子もコロナの入国制限や緩和され、増えてきている。15歳以上だと義務教育が終わり、どこの教育機関にも入れないが学校へ行きたい場合、日本語がまったく分からないとどこの学校にもいけない。東京ではフリースクール的なものはあるが、埼玉はない。そこでFICECは平日の昼間も少し勉強等を見ている。今は男子3人が週4日くらいきている。今後教育を受ける権利等問題になっていくと話している
清水委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校について <p>20日水曜日に終業式を迎え夏休みになる。全国的な状況と同様に子供たちや保護者のコロナ感染が拡大しており毎日1人2人休みが出ているが、本校はなんとか学級閉鎖をせずに夏休みに入ることができそうである。</p> <p>夏休みのプール指導はなし、5年生の林間学校は27日から計画通りいく予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動として、斎藤議長にお願いし教職員を対象として8月にプロ

八木澤委員	<p>グラミング研修会を行う予定。今後児童と関わっていける活動をしていきたい。地域の方とはキャリア教育や、歴史を学ぶ教育等について2学期以降予定しているので地域コーディネーターと連携を取りながら多角的な教育を進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市PTA連合会の活動について <p>入間地区のPTAの連盟と協働で講演会を11月25日にステラ・イーストホールで開催する予定。内容等については今後決定する予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間コロナで活動が来ておらず、打ち合わせもなかなかできない状況であったが、先日久しぶりに集合形式で会議ができ、活動をしていこうと動き出そうとしている。 ・葦原中学校の学校運営協議会委員も行っており、葦原中ではPTAと一緒に活動できないかと検討している。 ・PTAとしても先生の働き方改革を進める中でできることがないか検討している。
斎藤議長	<p>「小学校のプログラミング教育活動について」別紙にて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじみ野市生きがい学習ガイドブック2022に登録 ・研究会作りの経験 ・これまでの活動 ・これからの活動予定
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育アドバイザーの活動について <p>最近外国籍の親子が増えてきた。埼玉県では先に分かっていたらその国に対応した資料を用意してくれるが、ロールプレイをすると、入ってきてもらえない。そこでコロナになりやりづらくなった。また、学校の教頭先生とPTAの保護者の方とおこなっていたデモンストレーションもコロナの影響でなくなった。研修会ばかりで実際に相談を受ける機会がなくなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和推進事業の報告について <p>6月20日と7月14日に実行委員会があった。会長を引き受けた。</p> <p>3年ぶりにフェスティバル方式で10月1日にフクトピアで13時からの予定である。今年が沖縄本土復帰50年にあたるのでその講演を石川文洋さんをお願いする。伝承もフェスティバル形式で直に聞けるので、ぜひみなさんに聞いていただきたい。ウクライナについても葦原中の生徒が鶴を折ったりしている報告を当日お願いしている。花の木中の生徒さんに演奏をしてもらう。パネル展示を本庁舎と支所で行う予定。</p>
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今一番課題視しているのが、学校運営協議会の活動をどうするか。社会教育がどう関われるか。また、公民館がどう関われるか。コミュニティ・スクールは平成14年あたりに文部科学省が始めた。もう20年たつが、まだ全国の公立学校

で34%ほどである。地域学校協働活動は57%ほど。なぜ進まないのか。必要性があって国が立ち上げた国の制度だが、20年たってもこの程度である。埼玉も第3期の振興計画を推進しているが、それまではどういう文言を使っていたかというコミュニティ・スクールの支援である。それを第3期に推進にしたとたんに増えた。つまり、学校現場はそういったところの動きが鈍い。法改正を今回した。社会教育法や地教行法を変えたことによって意識が徐々に変わっていった。もう1つは、なぜコミュニティ・スクールにしていかなければならないのかというところ。今ふじみ野市も同じ。都市化がどんどん進んでいる。なかなか地域のコミュニティが作られていない状況があると思う。そういったなかで、学校に地域がどうやって関わっていくかが非常に難しい。この仕組みづくりをしていかななくてはいけない。先ほどPTA関係の話も出ていたが、全国でPTAの課題もでてくる。つまり全国でPTA活動が停滞している。なり手がいない。でも私の基本的な感覚としては、イギリスは学校理事会制度がある。日本の学校運営協議会と似たような組織があつて、そこでは教員の採用まで担う。日本はそこまでやっていない。大事なことは戦後の復興のなかで、PTAが果たした役割は非常に大きい。そのPTAがやってきたことは今出来るかといわれれば出来ない状況がある。そうすると地域はどのように学校に関わっていけばよいかと考えた時に、国はこれからの社会の中では学校運営協議会制度の充実が必要であると考えを出している。学校としてそれをどうやって受け入れていくのか。学校はある意味保守的。今のままが良い。PTA活動が盛んであれば学校運営協議会はいらない。私はそう思っている。だけど現実はそのじゃない。だけど子供たちには地域の育て手が要る。そこを敢行できるのがこのコミュニティ・スクールだと思う。また地域学校協働活動だと思う。3月にやる社会教育士として学校現場や公民館講座であるとか、また生涯学習関係の人生100年どう生きるか、そんな講座の講師として動いている。また何かあれば一緒に勉強させていただければと思います。

小澤委員

・石川委員と一緒に入間地区社会教育協議会に出席し、会計に任命された。今度研修会を開くということで、県の職員に出前講座をお願いするという話がでていたが、コロナで出来る、出来ないがあると思う。資料のほうにオンライン開催も可能とでていたので、一度地域学校協働活動の研修で、オンラインで研修を受けた後、少人数のグループに分けて学会みたいな形で意見交換をやったことがあるのでもし直接開催できない形でもオンラインで開催出来る手立てがあるのであれば、私も勉強したいという気持ちがあるのでぜひとも開催していただいて、みなさんと一緒にできたらと思っている。

・私は地域学校協働活動の地域コーディネーターをやっており、今年度から地域コーディネーターを全校に配置するというので、活動が本格的にスタートしたところだと思う。私は3年前からCSディレクターをやっており、PTA本部役員や、学校応援団などの立ち上げをやってきた繋がり子供は小学校を卒業しても私はそのまま小学校のボランティアのお手伝いをしている状況で、そのときからCSディレクターをやっている。地域コーディネーターをやっていてコロナで活

動が出来ないなか、どのように活動していけるのか考えてきたが、基本的に学校からの依頼に基づいてゲストティーチャーや市内で活動している団体を探すというのが主な役割ですとされている。この前も大井小学校から農家さんが小学校2年生の授業に来ていただいてトマトの芽欠きを直接指導していただきたいという話をいただいた。あちこちに電話して断られ大変なこともあったが、農家さんにお引き受けいただいて、授業を実施したところ。こちらから学校へ提案することもあるが、採用されることが難しく、指導要領のなかに入っていくのが難しい。提案して今年はかなわなくても先生に話を通してもらい、来年は出来るか、その年度に組んで再来年度採用されるかという状態で、学校からの依頼はありがたいが、こちらとしてもこういった活動が出来るのではないかとといったものがあっても、なかなか活動に繋がっていかないことが難しい。運営協議会にも参加しているが、町会長さんも輪番で来ていただいて、学校の活動に参加してください、ぜひご協力くださいといわれるが、子供たちが地域の行事やお祭りとかに全然来ないというという言葉が心にずっと引っかかっている。自分もそうだなと思った。学校に来てくださいというからには、学校から地域に出ていくこともすごく大事だなと思った。学校に地域から声をかけてもらって学校とのつながりを強くしていけたらなと思って地域の町会長さん達とお話しする機会をつくったりしている。今年度大井中学校区の3小学校がモデル校として活動してくださいとお話をいただいている。大井中学校は入っていないが率先して話に入ってください、先日4校の地域コーディネーターが集まって情報交換会があった。どこも同じような悩みがあり、人員不足のことや、こちらから提案してもなかなか実現しないことなど同じような問題も抱えている。大井中学校区という同じ地域を共有している学区になるので、合同で開催出来る活動はないか積極的に考えていこうという話になっている。先ほどの齋藤議長の話にもあったが、やりたいと手を挙げて下さっても学校から話が出来ないとそれは通らないということが、私としてもジレンマが強く、よく学校の先生から地域にどういった人がいるかリストが欲しいと言われるが、結局リストを出したところでそれが学校のニーズに合わないと、地域の人にできますと言っていただいても実際にはお願いすることがなければ、そのリストをこちらから提出するのは、私としては不本意というか、それを地域の人にいえないと学校に言っている。ただ、こういった人がいるなら頼んでみようかなということがあるのも事実だと思う。なので、ふじみ野市としてこういった活動が始まって、社会教育課でリストを作成することなので、まずはそういったところから始めていければいいなと思っている。

齋藤議長

質疑応答

長谷川委員

・小澤委員へ質問。私はボランティアセンターに登録して30年以上ボランティアをやっているが、地域コーディネーターは内容がとても大変で、ボランティアでやるというのはどうか。

大久保委員	<p>・法的に決まっています、地域学校協働活動推進員として委嘱を受けているので有償である。コーディネーターはあくまで呼び名であって、本来であれば地域学校協働活動推進員という社会教育法上の位置づけであるので有償である。金額は自治体によってばらつきがある。</p>
長谷川委員	<p>・各小中学校に1人いますが、みなさんは委嘱を受けているのか。</p>
小澤委員	<p>・専任が望ましいと思うが、学校運営協議会会長やPTA会長と兼任の方もいる。また、小学校と中学校で兼任の方もいる。まだまだ足並みがそろわない状況だが、市としては、専任をお願いしているので、活動しながら形は出来ていくかなと思っている。難しいところで、コーディネーターの活動として書けることと、活動との関係性が難しいところや、予算の関係等あるが、私はもともとPTAの本部などボランティアとしてやってきてしまっているところがあるので、活動費をそれでいただけてしまっているのかと思ってしまうこともある。今出来ることもあまりないのが現状。</p>
大久保委員	<p>・年度初めに学校計画案を決めると思うが、その中で校長先生が学校運営方針を出して、今年度こういったところに力をいれたい。そのためにこういったところに地域の力を借りたいというお話があると思う。</p>
清水委員	<p>・基本的にはすべての学校がそうしているという認識だが、他の学校の学校運営協議会にでたことがないためわからないが、本校でいえばコミュニティ・スクールとして平成29年度から行っている実績があるため、流れについては確立されていると思っている。コロナ禍で3年ほど活動が停滞していたが、市として向かっている、これまでやっていたコミュニティ・スクールに地域学校協働活動を取り入れながら、学校運営協議会とある程度仕分けしながら進めていくという方向性が出来つつあると思う。本校のコーディネーターはこれまで地域の方だったり、PTAの方だったりがあるままスライドして残ってくださった方で、元保護者であり、地域を活性化したいと思って下さる方で、こういったことをしていこうと試行錯誤しながらやっていることは間違いない。今やりたいことが明確にあってやっていこうということが正直に言うとまだ決まっていない。そういったなかでも知恵を絞ってくださっている。例えば、学校応援団の活動などもコロナ禍で考えていて、市民大学でボランティアを募ったけども学校のほうではやらないとなってしまう、実際には活動が出来ていないことがあった。本校もそうだが、学校応援団の土壌が活発にあったものがここ2～3年止まってしまい、何事も大々的にやりましようとならない。そのなかで学校応援団を減らさないためにどうしようといったところを試行錯誤していて、とりあえず今の時点でできるのはと先月の時点で話がでたのは、学校応援団自体が活動出来ていなくて今の1年生や2年生の保護者はそもそも存在を知らない。こういった活動がありますよというアピールはせめてしようという話になり、宣伝のためポスターをつくることになっ</p>

	<p>た。そういったできないなら出来ないなりに、絶やさないうための活動をできればとコーディネーターに話をしている。明確にゴールがあるわけでもないし、これをやれば間違いないというものがあるわけでもないが、今地域とのつながり、それを切らさないためにしていく。長い目で見ていく。</p>
小澤委員	<p>・校長先生次第というところもあると思う。運営協議会のやり方も以前の評議員と同じままというところもあるという話も聞いている。地域性もあったりすると思う。大井小はボランティアや地域の方が防犯パトロールによくでてください、そうではない地域があったり、それこそゴールは1つではない、学校次第というものがあると思う。</p>
千葉委員	<p>・今後の会議の議題は分からないが、地域学校協働活動が今どうなっているのかというのが知りたい。今後話ができる機会が欲しい。</p>
斎藤議長	<p>議事「その他」議事進行</p>
事務局 (小林)	<p>議事「その他」について連絡 ・次回会議のお知らせ</p>
斎藤議長	<p>議事進行</p>
中窪副議長	<p>閉会の挨拶</p>